

令和3年度 第2回愛知県生涯学習審議会社会教育分科会会議録

1 開催期日

令和4年2月14日（月） 午後3時40分から午後4時40分まで

2 場 所

愛知県議会議事堂ラウンジ及びオンライン

3 出席した委員 計8名

大石 益美、大村 恵（分科会長）、加藤 まゆみ、志村 貴子、三輪 宮子、
山内 晴雄、山田 久子、吉田 真人

4 欠席した委員 計2名

池田 紀代美、久保田 力

5 会議に付した事項

(1) 報告

愛知県公民館連合会 新型コロナウイルス感染症等に対する公民館運営の指針
について

(2) 議題

「あいちの新たな社会教育」の提言に向けた調査について

6 議事の経過

- 会議録署名人の指名
分科会長から志村委員と山田委員を署名人に指名
- 報告
事務局から説明
- 議題「「あいちの新たな社会教育」の提言に向けた調査について」
事務局から調査対象1・2について説明
調査対象1について、質問・意見なし
調査対象2について、各委員からの詳細な意見は別紙のとおり

<愛知県公民館連合会 新型コロナウイルス感染症等に対する公民館運営の指針について>

- 公民館主事、職員の背中を押し、公民館の活動が広がることにつながればと期待している。また、公民館運営の指針を市町村がどのように受け止めたか、様子を聞かせてほしい。

<「あいちの新たな社会教育」の提言に向けた調査について>

- 高校の学校現場で来年度に向けて問題となっていることは、成人年齢の引き下げである。教育委員会や社会はどう考えるか、また、中高校生へどのような期待をもっているのか、今後の課題などを生涯学習・社会教育の視点で調査の問題に取り込めないか。
- まずは成人式をどうするか。高校は、目の前で成人を迎えていく生徒を送り出していく中で喫緊の問題だと思う。地域の中の一員として、地域がどう受け止めていくか、仲間として迎え入れていくか。私も大事だと思う。伊賀市だけが18歳での成人式を行う予定と聞いている。
- 本県では、他課が成人式を所管しているが、社会教育委員が成人式の構想を練っているところもあるとの意見を受け、成人式の考え方や成人年齢が下がったことで、若者がいかに地域の活動に貢献をしていくのか、参画させようとしているのかという問いについては、検討したい。
- 18歳までを入れるかは私の町でも議論になったが、会場の広さの面から難しい。また、成人式の在り方を議論する必要がある。今の成人式は、成人が楽しんでもらうためのイベントになっている。社会教育という面から考えて、私自身は日頃から若者が地域にどう関わっていき、その過程を経て成人という日を迎えるのかという視点でみている。
- イベント的な内容は、「二十歳の集い」に任せ、新成人と親の世代が一緒になって祝う、あるいは対話をするといった地域に根差した機会を作ってはどうか。今回の調査は、提言するための調査であるため、県の社会教育委員として、市町村の社会教育委員に対して、投げかけをする意味もある。そのための設問という点では、とても大切だと思う。
- 全ての設問の最後に、自由記述で他に必要と思う対策や新しいアイデアを書いてもらってはどうか。
- 公民館の使用も学校のように「これはよいが、これはできない」というように対応ができないか。施設の使い方によってリスクの違いがあるので、ソーシャル・ディスタンスをとって行う会議まで一律使用禁止とされるのは大変困っている。私の町では、全面使用禁止となっている。

- 実際には公民館は市町村が所管している。一方で、全公民館にオンラインを配備しているところもある。「こうしなさい」という権限は県にはないが、公民館連合会からの呼びかけをしていただきたいと考えている。
- 社会教育施設の使用のルールがどうなっているかは、別に調べていただいているか。また、どういうルールを定めているかを調べていただけるとよいのではないか。
- 調査の件で、ICT のことであつたり、コミュニティ・スクールのことであつたり、学校現場の現状に合ったものが設問に入っていると感じている。問 22 については複数回答にして、順番をつけてはどうか。また、日本語教育の設問を見ると、中学校卒業後の本人の支援ということが書かれているが、小学校入学前の保護者の支援が必要ではないだろうか。入学式の時に、外国にルーツのある方は、通訳をこちらで配置するが、地域の文化的な違いまでなかなか理解できずに、例えば、交通旗当番や、子供会はどういうものなのかなどまでフォローできない。そうした点の現状把握も話題に入れていただけるとありがたい。
- 問 11、17～19 の就学前の子育ての問題について、若い父親・母親たちが、子供の発達段階に応じてどう接していくとよいか、そして、親としてどう学び、成長していくかという視点が入っていない。子育てしながら学び、父親・母親として、男女共同参画社会の中でどうやっていったらよいかということ、より深く考えてほしい。子育て経験をし、人生経験してきた者たちから聞ける場があるとよいのではないか。
生涯学習事業が社会教育という面から行われていくが、まだまだ欠けていると感じることは、自然環境や食育・健康の問題である。正しく知ることが大切ではないだろうか。自然環境や食育の問題、就学以前の子供の問題というものは、社会教育委員そのものも、研修していかなければいけない問題である。
- 研修テーマは、平成 26 年度の設定問のままがいいのかというのは、山内委員の言われるとおりでと思う。問 11 に関わる、学習課題について、他にも考えてほしいことがあれば、発言をしてください。
- 私が子育てネットワークをやり始めた 10 年以上前の親御さんの感覚は、一度社会から離れ、離れたときに何をしたらいいかというところから何かを学ぼうという形があった。しかし今は、親御さんたちが 1 年経ったら、仕事に再び戻るといった条件のもとに、子育てをされている方がとても多い。だから、その間にいろいろなことを学ぼうというよりは、その短い間に子供をしっかり育て、その後は社会に戻るといった感覚の方がすごく増えている。